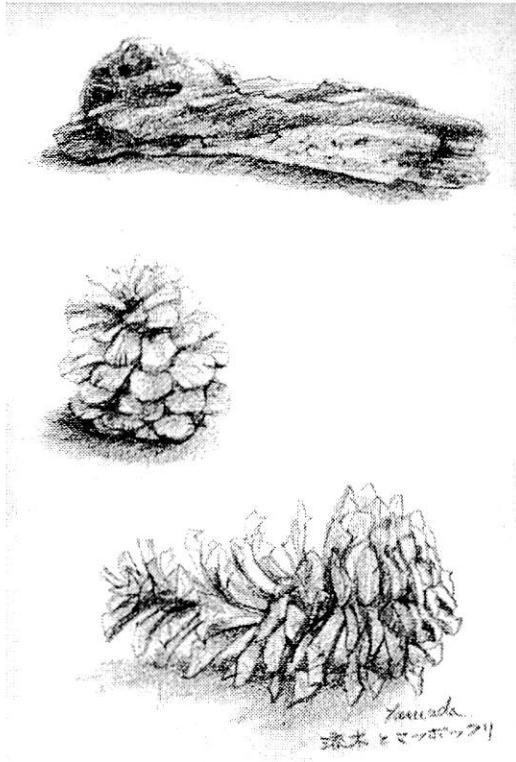


# 協議会ニュース 126号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2009.12



流木とマツボックリ 山田綱子 (知多支部)

## 講習会報告

### 「あいちの自然観察会」報告

東三河支部

尾張支部

## 研修会報告

名古屋支部

知多支部

西三河支部

### 東三河の野生哺乳類

### 寄稿「黒いアカトンボ」

### 理事会記録

### 事務局だより

### 編集部

浅井聯司 ..... P2

梶野保光 ..... P3

樋口祐子 ..... P4

森原育男 ..... P5

永田孝 ..... P6

石川正雄 ..... P7

神戸敦 ..... P8

安藤尚 ..... P9

..... P10

..... P11

..... P12

## NACS-J 第434回自然観察指導員講習会「愛知」を終えて

協議会事務局 浅井聰司（名古屋支部）



去る10月16日～18日、岡崎市桑谷山荘において、46名（県外4名）の参加で指導員講習会が催されました。

講師にお迎えしたのが、今井信五（しろうま自然の会、NACS-J 参事）、布谷和夫（琵琶湖博物館研究員、大阪連絡会会長）

事務局（開催の裏方）として、本間慶子（NACS-J 普及担当）、福田博一（NACS-J 普及担当）、林博之（県）、宮本芳子（県）、関利春（県）、

磯谷元美（県）、高橋匡子（県）、高林美和子（県） 浅井聰司（協議会事務局）が参加。

協力していただいた指導員は、松尾（尾張）、樋口（尾張）、萩原（名古屋）、浅井（名古屋）、降幡（知多）、榎原正（知多）、永田（知多）、三田（西三河）、石黒（西三河）、間瀬（東三河）、神戸（東三河） 石川（西三河）でした。

2泊3日の講習内容は、

- ① 森を通して自然のしくみを見に行こう（実習）
- ② 自然保護を考えよう（講義）
- ③ 地域の自然を理解しよう（実習）
- ④ 自然のテーマ探し（実習）
- ⑤ ミニ自然観察会（実習）

2日目に寒冷前線が通り、少々雨にたたられましたが、おおむね天候は良好でした。参加者の熱意に支えられ、笑顔のうちに終えることができました。

この講習会又は他県での講習会に参加して、新指導員として当会に加入された方々は以下の通りです。（敬称略）

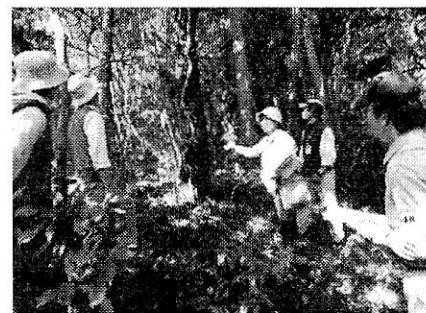
名古屋支部：青木一朗、加藤邦彦、坂野静雄、  
佐藤裕美子、野津原泉、森美紀、  
山口美香

尾張支部：井村完二、加藤民柄、木村絢子、  
久米未祐、鈴木昭忠、滝宏志、  
松山佳代子

知多支部：大矢美紀、加藤美幸、川端実、  
村山貞行、森田拓磨

西三河支部：荻野嘉美、古間木立也、古本峯夫、相良洋子、長野勝也

東三河支部：坂口幹子、野田賢司、林英明、森恵二



みなさんの今後のご活躍を期待します！

# 東三河支部 「真夏の森でよい汗をかこう」

東三河支部 梶野保光

日時：2009年8月2日

場所：田原市 滝頭公園

「真夏の森でよい汗をかこう」というサブタイトルの「あいの自然観察会 in 田原市滝頭公園」はあいにくの雨の中、8月2日に開催した。早朝は土砂降りの雨であったが、開催時間の午前9時30分には、雨もやや小康状態となった。しかし、天候状態を考慮して、公園の四阿風のトイレのベンチで滝頭公園の自然や滝頭で見かける「ウバユリ」の生態などを実物やイラストをmajieで、中西普佐子会員が解説した。今日の参加者は一般参加者15名と会員14名である。

雨もあがり、いよいよフィールドに出ることになった。滝頭公園には渥美半島唯一の滝「不動滝」があるが、足許の状態を考慮して、滝の観察は次の機会に譲った。この「不動滝」から流れてくる汐川干渉の源流の一つである庄司川を堰きとめて作った農業用のため池であった「滝頭上池」と「滝頭下池」が公園内にある。一昨年、この池を管理する「田原区」が池干しをして、オオクチバスやブルーギルの駆除をした。この池干しの際、池底からは愛知県：絶滅危惧IA類の「マツカサガイ」の棲息を確認した。今日は残念ながら池は満水状態で岸辺の浅い場所に棲息する「マツカサガイ」を見ることは出来なかった。

今日のフィールド観察はこの「滝頭上池」からスタートした。上池に棲む「止水性トンボ」や池の周りの植物を観察し、園路脇のツワブキの観察をした。ここでは「ツワブキの茎はなぜふくらんでいるの？」のテーマで「虫こぶの名前はツワブキハグキフクレ」「虫こぶには何がいるのかな？」と解説をした。スギやヒノキの人工林に囲まれた園路では滝頭山等、この周辺の山の基岩であるチャートの露頭で間瀬会員と高橋会員による滝頭公園周辺の地形・地質の解説を行った。この後、不動滝から流れる溪流沿いの「二の滝」の観察で滝の出き方、滝周辺の植物、水温や気温の測定がプログラムにあったが、滑りやすい地形のため、今回は中止となった。晴天であれば、滝頭公園ではクマゼミの鳴き声が絶間なく聞こえた自然観察会であったが、今回は無理であった。

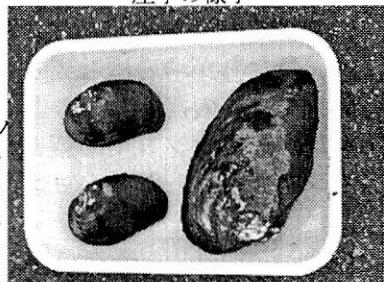
11時30分過ぎに観察会は終了し、参加者からアンケートを回収したが、多くの参加者があらためて、滝頭公園の自然の豊かさを感じてくれたようである。

## ＜観察会余話＞

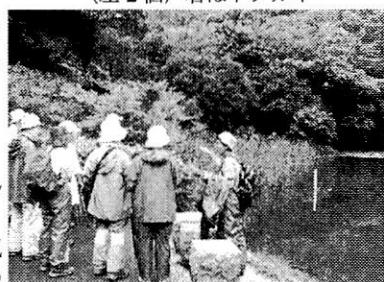
滝頭公園の磁気点標石について観察会でフィールドに出発する前に林会員から磁気点標識の解説があった。以下は「会報しそんかんさつ178」に掲載された紹介文の抜粋である。滝頭公園内（観察会の集合場所とした駐車場の北側）に設置されている「磁気点標石」は愛知県内ではここだけです。標石の上面の刻印は○の中心に・印があり、三角点の刻印△と相違します。方位磁針のN極は概ね北を指しますが、厳密には北を指していません。つまり、地図上の北（真北）と方位磁針が指す北（磁北）は微妙にずれています。この真北と磁北の角度を偏角といい、時間と場所により異なります。国土地理院では10年周期で、これらの磁気点で磁場を計測し日本の磁気図・磁気偏角図を作成し、これより地図の真北と磁北の修正を行っています。当地の磁気点は一等磁気点で全国に100ヶ所以上設置されているものの一つです。



座学の様子



確認されたマツカサガイ  
(左2個) 右はドブガイ



滝頭上池でトンボの解説



滝頭公園の磁気点標石

## あいの自然観察会

尾張支部 樋口 祐子

日時：10月31日（土）9:30～13:00 場所：春日井市少年自然の家

テーマ「森の恵みを楽しもう」の1番の恵みがお天気でした。

朝から秋晴れの心地よい日よりで気分よく1日のスタートです。以前実施された「ふるさと親子自然観察会」の頃から雨で参加者が集まらないことが悩みだったのですが、今回は参加者を増やすということを第1に考え、また、雨でもできることを考慮し、自然観察会と草木染めと鍋物と欲張った企画をたてました。

一般の募集は春日井市広報に載せてもらい、私も知り合いに声をかけて、大人15名、子供8名、指導員11名の計34名の参加がありました。

集合場所から野外炊事場（屋根付き）までの自然観察会では、ムラサキシキブとヤブムラサキの葉の感触の違いを体験したり、築水の森によく見られるアズキナシの赤い実を味わったりしました。じやりじやりした感じで、リンゴに似た味がしました。フェンスの向こうではコウヤボウキが枝先に白とピンクの混じった花を咲かせていました。高野山ではこの枝を束にしてほうきを作ったと言われています。クチナガガガンボが花に群がっていました。

築水池のほとりのマンサクやアカメガシワが黄色に色づき、カキの木も葉を赤く染め、鳥たちがついばむ実も、彩りを添えています。切り通しの道の片側にシシガシラがライオンのたてがみのような長い葉を茂らせていました。

草木染めはソヨゴの葉とクチナシの実でハンカチを染めました。媒染剤にはミョウバンを使いました。ソヨゴは淡いさくら色、クチナシは優しい感じの黄色に染まりました。

自然から取り出した色は優しくてほわっとした温かさを感じますね。

ハンカチを染液に浸している間に鍋物をしました。少年自然の家の職員である森田さんのアイデアで、うゆ味と白みそ、赤みその3種類の鍋を作りました。

参加者のお母さんパワーやおばさんパワーはすごいですね。短い時間でおいしい鍋物の完成です。男の人は火の係です。昼食としておにぎりを持ってきた人が多く、グループでおしゃべりをしながら、3種類の鍋はすっかり空っぽになりました。

協議会事務局の浅井さん、西三河支部の石川さん、名古屋支部の布目さん、尾張支部の新人を交えた指導員同士の心温まる支部間の交流もできました。

この催しから、私たちの生活は自然からたくさんのいただき物をして成り立っていることを再認識しました。これを契機に自然を守る仲間が1人でも増えることを願っています。



# 初秋の花咲く

# 竜吟の滝

名古屋支部 萩原 育男

8月30日(日)快晴の下 岐阜県瑞浪市釜戸の竜吟の滝で今年最後の研修会を行いました。

名古屋の集合地より12名、現地参加4名の16名が瑞浪市ふれあい館の指導員の方の案内で観察しました。以下は、出会った植物を中心とした記録です。

## 駐車場～自然ふれあい館

ふれあい館までの道には湿地があり、まわりには秋の七草をはじめたくさんの野草が植えられています。また中には野草・小鳥・昆虫の写真や標本・クラフトなどが展示されていました。

ナンバンギセル：ススキ・ミョウガなどの根に寄生する。マドロスパイプに似ているので付けられた名前。

サギソウ：湿地に生えるラン科の植物。花の形が鷺に似ているので付けられた名前。

ミソハギ：水辺に生える多年草。盆花と呼ばれる花束をお盆に飾る風習がある。

シュウカイドウ：中国原産で庭に植えられる多年草。日陰で湿気の多い土地に野生化。

その他観察した植物

オモダカ コケオトギリ(花)

ヤブラン (花) ヒオウギズイセン (花)

ハンゲショウ (実) ホタルブクロ

## ふれあい館～竜吟湖（さわやか道）

二の滝の赤い橋を渡ると道はすこし険しくなり、曲がりくねった石の階段を登ります。樹木が茂り、日陰に生える野草が目立ちます。

ナガバノコウヤボウキ：林床に生える小低木。1年目の枝には花は咲かず、2年目の枝の固まつた葉の間に1個の花が咲く。

ヤマジノホトトギス：樹下に生える多年草。花が鳥のホトトギスの腹の模様に似ているのでついた名。

キッコウハグマ：林に生える多年草。葉の形が亀の甲羅に似ているので付いた名前。

その他観察した植物

センニンソウ (花) テイカカズラ

ジガバチソウ



写真(上)コウヤボウキ

## 竜吟湖～梵天滝（逆川道）

竜吟湖の明るい草原にはススキが穂を出し、草原の野草が見られます。帰路の林床には登りに見られなかった草木が見られました。

ワレモコウ：山の明るい草原に生える多年草。

小さな花が楕円形に固まって枝先に咲く。シロバナシコクママコナ：山の乾いた所に生える1年草。普通ママコナは紅紫の花が咲きますがこれは白色の花で珍しいものです。種が米粒に似ているのでつけられた名前。

ツクバネ：山地に生える低木。実の形が正月の羽子板の羽根に似ている。

マルバノキ：山地に生える中低木。晩秋には紅葉・花・実が同時に見られる。

その他観察した草木

サジガンクビソウ (花)

クルマバハグマ (花) キッコウハグマ (花)

ナガバノコウヤボウキ (花)

ヤブタバコ (花) バイカツツジ (実)

ソヨゴ (実)

## 参加者

滝田 櫻井 小谷 久村 布目 長谷川

加藤 古田 太田 山口 浅井 森

岡田 岩月 斎竹 萩原

# 布土川の生き物観察

知多支部 永田 孝

日時：9／5（土）

9：30～12：00

場所：布土川平田橋周辺  
(愛知県美浜町大字布土)

知多支部では毎年10回を超す観察会を川に入って行っていますが、他支部ではあまりそのような観察会は行われていません。そこで、降幡支部長が「川に入っての観察会を他支部の指導員の方にも経験していただこう。」と提案したことで、本年度の知多支部担当の研修会には、この『布土川の生き物観察』が予定されていました。

ところが、当日は東三河支部担当の研修会『御前崎の磯の生き物観察』と重なっていたために、そちらに参加された指導員の方もあつたりして、他支部の指導員の方の参加は結果的に0名と、研修会としては非常に寂しい結果となりました。

ただし、観察会自体は30名を超す親子（子どもが9名！）が集まり大変な盛況となりましたので、以下にその観察会での指導の様子を報告します。

9：30に集合場所であった布土公民館前で受付を行った後、森田博文指導員が魚を獲るためのタモ網の使い方の説明を行いました。また私は、保険に関する説明に加えて、川での観察の危険性をお話して注意を喚起し、参加した家族の親たちに自分の子供の監視をお願いしました。

その後、川まで移動して観察会のスタートとなりましたが、護岸がコンクリートで固められた川を土手から降りるのも一苦労です。ここでは私が家から持参した脚立を伸ばし、はしご代わりにしてみなさん安全に降りてもらいました。

下に降りてから1時間ほどの間、各自で生物の採集を行ってもらいました。その間私は、参加者が採集した生物の解説も個別に行いましたが、極力参加者の安全確認に努めました。また、橋の上からは美浜町の職員も安全確認をしてくれていました。

採集が終了してから再び公民館前に戻り、採集してきた生物を大まかなグループごとに集め、それを降幡支部長が説明することで“わかちあい”を行いました。このように大人数で生物を採集した場合、自分では採集できなかったものも“わかちあい”によって共有することができるため、より充実した観察会とすることができます。

説明の中では、あらかじめ用意してあったメダカとカダヤシを見比べてもらい、外来種に対する関心を持ってもらうような工夫もありました。

なお、当日観察された生物は以下のとおりです。

マハゼ、ヌマムツ、タイリクバラタナゴ、ウナギ（体長8cm位）、カダヤシ、メダカ、ヌマチチブ、ヨシノボリの一種、モクズガニ、アメリカザリガニ、テナガエビ、ミゾレヌマエビ、イシマキガイ、シジミ、ドブガイ、サカマキガイ、コカゲロウ、ガムシの仲間、アメンボ、コガタシマトビケラ、ミズムシ、ヒル、プラナリアの一種、ヌマガエル、イシガメ アゲハチョウ

# 自然観察指導員講習会に備える事前研修会

西三河支部 石川正雄

日時：平成 21 年 9 月 27 日（日）

場所：岡崎市 桑谷山荘

内容：午前中／自然観察会の進め方（室内）、午後／桑谷山荘周辺の下見（野外）

参加者：三田、深見、石黒、馬場、松山、石川、山本、水谷（以上西三河）、滝田、萩（以上名古屋）、永田（知多）、浅井（名古屋）、樋口（尾張）

今回の研修会では、自然観察会の進め方というテーマを設定。各支部、各地域の主に観察会のリーダーに声をかけて参加していただいた。外部講師は招かず、それぞれのやり方を事例報告してもらい検証するというやり方である。まずは参加者全員の自己紹介の後、各支部における観察会の年間計画の実情について報告しあった。

●西三河支部・・・所属指導員が主体となつて全 7 箇所で行われている地域定例観察会のほか、支部主催観察会を年 8 回開催。支部主催観察会は持ち回りで担当指導員を 2~3 名割り当てている。

●名古屋支部・・・現在 11 箇所で定例の観察会を開催。ネイチャーフィーリングや保護活動に伴う観察会など形はさまざま。定例以外は「あいの自然観察会」のほか、行政との共催が年数回。市外へ出かける親子向け自然体験教室も年 5、6 回開催。

●知多支部・・・定例会ではなく、5 市 5 町の自治体と一緒に観察会を開催。毎年 10 月末頃、各自治体の支部で計画を立て、年 100 本以上の観察会を計画。1 日に 3 つ重なることもある。ほかに、自治体や学校などの依頼で委託事業も。

●尾張支部・・・定例観察会が全部で 10 箇所、どちらかというと個人的に観察会をやっている方が多い。受託事業として森林公园と小牧市からの依頼を受けることも。

このほか、各支部における「観察会の案内の方針」や、「観察会の進め方」について事例を出し合った。

・支部主催観察会では観察会の進め方に

ついてあまり口を出してこなかつた。担当者にお任せする状況。担当になってもらえるだけありがたいという人材不足の実情がある（西三河支部）

- ・資料とメモ欄、記録用紙をセットにしたフィールドノートを、参加者 1 家族に 1 つずつ渡して記入してもらう。（若林自然観察会）
- ・バインダー、記録用紙、12 色鉛筆など観察会セットを用意し、参加者全員に持つてもらう。（呼続観察会）
- ・テーマは決めるが、下見はせず、その日に皆で発見したことを大切にする。（くらがり渓谷自然観察会）
- ・新人指導員が入ってきたら 10 箇所のどこかに指導員として参加してもらう。最初は助手的な役割から（尾張支部）など

今回の研修会は、各自が指導員講習会を受講して以来、これまであまり話し合うことがなかつた「観察会の進め方」というテーマで話ができたことに意義があると感じた。支部や観察会ごとの実情は違えど、ほかの指導員の成功例や行政など地域組織との連携の取り方、抱えている問題点などを聞くことによって、自分が指導員として観察会を主催する際の参考にできる。今後もこのような機会が設けられることを期待する。

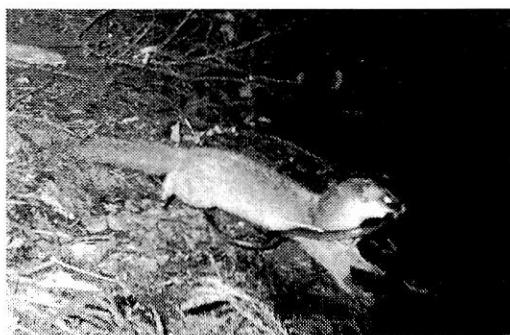
## ～東三河の野生哺乳類・その5～

## センサーライド撮る②

奥三河・東三河支部 神戸 敦

## ◆イタチ

すでにヘビが冬眠に入ったと思われる11月のある日、イタチがヘビをくわえてカメラの前を走り去りました。しかも、同じ個体かどうかわかりませんが、3日連続です。迫力のある画像でしたので、「自然保護」に投稿し掲載してもらいました。



## ◆キツネ

東三河地方の農家はイノシシが増え大変困っています。駆除をしていますが、追いつきません。何故、こんなに増えたのか？いくつかの理由があるかと思いますが、ハンターの方にお聞きするとキツネが減少しウリ坊が捕食されなくなったからだという答えでした。センサーライドに写る回数もキツネは少なく、なるほどと納得します。



## ◆ハクビシン

以前は長野県の天然記念物にまで指定されたハクビシンですが、分布域が南下し、



ついには渥美半島の先端付近まで達しました。果樹園中心に農家の被害もあり、また豊橋の市街地にも現れヒトの生活を脅かすほどまでに増加しました。タヌキ同様にヒトへの依存度が高い動物です。

## ◆カケス

哺乳類ではありませんがカケスの話題。2006年は里にツキノワグマが出没し話題となりました。多くの人は、山にえさが無いので降りてきたのだろうと言いましたが



（理由はともかく）、降りて来たのはツキノワグマだけではありませんでした。フィールドとしていた吉祥山は、夏からうるさいほどの鳴き声でした。当然、センサーライドにも何度も写り、ドングリを運ぶカケスも撮影する事が出来ました。

5回にわたり、拙い文をお読みいただき有難うございました。自然観察の一助となれば幸いです。

当協議会の顧問をお願いしている安藤尚さんが、これまでの 60 年にわたるトンボの調査記録をまとめ、朝日新聞名古屋本社編集政策センターから「アカトンボ 愛知と岐阜の記録」を自費出版されました。(カラー写真入り B5 判 122 ページで、頒布価格は 2000 円)

そこで、この本にちなんで、この地域のアカトンボについての紹介をお願いいたしました。

## 黒いアカトンボ

安藤 尚

愛知県には 13 種のアカトンボ(トンボ科アカネ属)が生息しています。赤蜻蛉の名のとおり、成熟するとほとんどの種類が、赤化の度合いに差はあるものの赤くなります。特にナツアカネ、コノシメトンボ、ミヤマアカネなどの雄は、顔(頭部前面)・胸部・腹部と全身が真っ赤になって、「これぞアカトンボ!」という姿です。

こうしたアカトンボの中に、成熟しても赤化しない種があります。マダラナニワトンボです。羽化して間もないものは、他のアカトンボと同じように淡い橙黄色をしていますが、成熟すると雌雄ともに「黒いアカトンボ」に変身します。体は黒色の地に暗黄緑色斑のあるまだらですが、老熟したものは一寸見では全身黒色です。

このマダラナニワトンボは、愛知県のレッドリストでは絶滅危惧 I B 類にランクされています。国のリストでも I 類です。愛知県や岐阜県では、ため池から発生しますが、山からのきれいな水が溜まった池、遠浅の泥質底の池、水辺や池の中にチゴザサなどの背丈の低い水生植物が生育する明るい池などという条件が満たされた池が主な生息場所です。現在の愛知県では、このような池はごく限られています。しかし 1980 年代までは、少ないながらも希少種というほどのトンボではありませんでした。岐阜県では最近までレッドリストのどのランクにも入っていない「ランク外」のトンボとして扱われていました。

マダラナニワトンボの急激な減少の原因として考えられるのは、ため池の改修工事と里山の開発です。改修されたため池は、すり鉢状の池となって、遠浅・泥質底の池とは程遠く、水生植物は姿を消し、幼虫(やご)が潜む場所がなく

なり、成虫の産卵も行なわれなくなります。

また、池の周辺の開発は流入する水質を変えてします。

最近、急激に減っているトンボはマダラナニワトンボのほかにも幾つかあります。その一つがアキアカネです。ついこの間までアカトンボの代表格と言われてきたトンボです。アキアカネは水田が主要な発生地です。水の管理を中心とする水田耕作に適応して、日本各地で稻作が行なわれるようになった頃(弥生時代?)から分布を広げて繁栄してきたトンボだと言われています。それ以前は、洪水などによって自然にできた池や後背湿地の水溜りなどで細々と生活していたと考えられます。

1970 年代には、秋のはじめに、夏を過ごした涼しい山から何万匹という大群で平野へ下りてくるアキアカネが観察されて新聞に掲載され、また、街中でも電柱から家屋に引き込まれた電線に並んで止まる姿が普通に観察されたものです。それが、1990 年代になると、山里ではそれ程でもありませんが、平野の水田地帯では非常に少なくなりました。この 10 年位は激減の様相を呈しています。岩倉ナチュラリストクラブの皆さんのが、岩倉市自然生態園で、過去 13 年間、トンボの出現状況を調査された記録でも、2003 年(平成 15)以降アキアカネが急に減っていることが示されています。アキアカネの幼虫(やご)が、昨今の田んぼでは一生を全うすることができないことを示唆しています。農薬の使われ方や稻作作業の手順が変化してきたことが影響していると思われます。

夏の盛りに、「アキアカネを△△で、たくさん見たよ」という知らせを聞くことがあります、それは多分、ウスバキトンボです。アキアカネが平野に下りてくるのは、濃尾平野では 9 月中旬以降ですし、ウスバキトンボが群れて稻田や広場の上を漂うように飛んでいる姿は、遠目にはアキアカネのように見えます。

## 平成 21 年度 第 2 回理事会

日時：平成 21 年 9 月 23 日（水曜・祝日）13:00～17:00 場所：阿久比町中央公民館会議室  
出席：松尾、降幡、浅井、大谷、近藤、齋竹、永田、布目、山田、吉川、滝田、樋口、三田、山下

### 1 協議会の日

11 月 29 日に葦毛湿原で開かれる東三河支部の早朝観察会の後、10:00 から芋煮会を行い、会員相互の交流と親睦を図る。

「協議会の日」が新指導員歓迎交流会であることが分かるようになる。

周知は支部機関紙などを活用して行う。

### 2 指導員講習会

10 月 16 日から桑谷山荘で開催される指導員講習会のタイムスケジュール、講師等が紹介された。各支部の PR は 17 日の夜、30 分程時間をとってもらって行う。

募集定員割れで募集継続となり、支部で受講して欲しい人に声をかけてもらう。

### 3 COP10 開催 1 年前記念行事

10 月 10 日・11 日に愛・地球博公園で開催される記念行事にブースを構え、パネル展示、協議会 PR リーフレットを配布する。

当日協力してくれる会員を募る。

### 4 30 周年事業

COP10 関連で各種事業があり忙しいので 30 周年事業は COP10 後に延期する。

### 5 COP10 開催記念自然観察会

「COP10 パートナーシップ事業」として登録してあった支部主催の観察会のうち、平成 21 年 10 月から 22 年 3 月までに開催するものを「COP10 開催記念自然観察会」に登録した。PR 用横幕が配布され、事務費も支給される。

各観察会で報告書を作成し、事務局から支援実行委員会に提出するが、できれば横幕の入った写真を添付する。

### 6 来年度事業

支部間交流を機能させる方向で来年度の取り組み方を検討し、「あいちの自然観察会」は各支部で開催することとするが、新しい試みとして「なごや環境大学」の講座として取り組む。「研修会」は 2 支部合同で開催し、支部間交流を図る。来年度の支部の組合せとしては、(名古屋・尾張)、

(知多・西三河)、(東三河・奥三河) といった案が考えられる。

### 7 来年度の総会・講演会

会場は、なごやボランティア・NPO センターとしたいが、愛知県勤労会館も仮押さえする。

講演会の講師は、人間環境大学の藤井伸二准教授（生物多様性論）、愛知学院大学の子安和弘講師（発生生態学）、愛知学泉大学の矢部隆教授（爬虫類学・生態学）を候補とする。

### 8 来年度の役員体制

現在の役員は次の総会で改選となる。

事務局機能強化のため、事務局と支部事務局担当者等との会議や関連した役員が集まり易くする工夫が必要である。

新体制のあり方や候補者を次回検討する。

### 9 新入会員の会費

新会員の会費は新年度分からとし、今年度は事務協力金 500 円を払ってもらう。

### 10 その他

(1) 総会で出た協議会ニュースの用紙サイズについて検討した結果、当面 B5 判のまととする。

(2) 名簿は新入会員を含めて氏名、住所、電話番号、所属支部を載せて印刷し、協議会ニュース 12 月号に同封して配布する。ただし、申出があった場合は電話番号と住所の詳細を省く。

(3) 自然保護協会の「生物多様性の道プロジェクト」について、協議会として取り組むことは難しいが、支部の観察会で可能なところは取り組んでもらう。

(4) 降幡副会長が就任した愛知県の移入種検討会について紹介された。

(5) 次回の理事会は 12 月 23 日（水・祝日）13:00 から西三河で開催する。

（報告：齋竹）

## COP10開催1年前行事

去る10月10・11日、COP10のプレイベントとして、「生物多様性フェスティバル」が愛・地球博公園の大広場で開かれました。協議会もブース出展し、どんぐり工作とストーンペイントを行いました。参加者は80名ほどで、参加費は無料。子どもたちや親子連れが多く、工作の後に「自然大好き」「自然は大切な友だち」「森と海を大切にしよう」などのメッセージを、緑の葉でつくった短冊に書いて、ボードに貼りました。10日は樋口さん、山田さん、松尾さん、11日は滝田さん、松尾さんに手伝っていただきました。

来年度も催されますので、年間計画にのせ、担当者を決めて取り組みたいと考えています。事務局としてかなりのオーバーワークでした。

## COP10開催記念自然観察会

生物多様性会議支援実行委員会(以下COP10事務局)との共催で、10月から、県内各地で行われている協議会の観察会を、COP10開催記念自然観察会として登録しました。まだ、各観察会には連絡が行き届いてないかと思いますが、来年度の8月まで続きます。それについて、COP10事務局の担当者である本庄さんから、横断幕入りの写真を記録してほしいとの依頼がありました。現在、横断幕は協議会事務局の浅井のところに1枚あります。COP10事務局で事務費が計上されているようです。

観察会を実施されたら、必ず記録写真を撮っていただくようお願いします。

## 愛知県からのアンケート調査協力依頼

すでに愛知県環境部から会員のみなさんに「移入種の生息生育状況等に係るアンケート調査について」という文書が郵送されているかと思いますが、これは愛知県が移入種対策を進めるための資料を収集するものです。その検討のための「愛知県移入種検討会」には、当協議会の降幡副会長がメンバーとして参加しています。

協議会としてもこの調査に協力することといたしましたので、よろしくお願いします。

本来なら県からの依頼が届く前に協議会から調査に協力する旨のお知らせをすべきでしたが、協議会ニュースの発行時期と県の調査期日の関係から、事後報告になってしましました。

## 名古屋市獣医師協同組合の市民公開セミナー

名古屋市獣医師協同組合から依頼のありました次のセミナーに協力することとしました。

「緑の地球号 ガキ大将が自然を守る—絶滅危惧種は自然の中で遊ぶ子供たち—」

日時：平成21年12月12日（土）14:00～16:00

場所：名古屋市国際会議場2号館3階234会議室（熱田区熱田西町1-1）

講演：牛山正人氏（環境カウンセラー）、山田拓郎氏（犬山市市会議員）

主催：名古屋市獣医師協同組合（問合せ先 052-264-9382）

備考：受講無料、事前申込不要

## 二 平成22年度総会&amp;講演会のご案内 二

日程：3月22日（月曜日・春分の日）

場所：名古屋市内の会場を予定していますが申込み受付前のため未定

☆場所、時間、講師等は次回の「協議会ニュース」No.127でお知らせしますが、  
とりあえず日程を入れておいてください。

## 編集部から

- No.122 からNo.126 まで知多支部の山田絹子さんが表紙に植物のイラストを描かれ、東三河・奥三河支部の神戸敦さんがシリーズで「東三河の野生哺乳類」を紹介してくださいました。ありがとうございました。
- 協議会ニュースは協議会と会員の皆さんをつなぐ PR 媒体です。「支部だより」、「会員のページ」など、支部や会員のみなさんからの原稿を前提とした頁を設けています。積極的な投稿をお願いします。
- 協議会ニュースの編集や発送を担当していただける方を募集しています。ご協力できる方は編集部までお知らせください。

## 編集後記

■早いもので今年度も最後の協議会ニュースとなりました。隔月発行から年4回発行になり、編集作業にはやや余裕ができたものの、情報の伝達が不便になったかなという気もしますが、みなさんはどうお感じでしょうか。■今年は生物多様性条約の締約国会議COP10関連で振り回された年でした。パートナーシップ事業やらCOP10開催記念自然観察会、やることは同じでも主催者が異なるなど疑問ばかり。結局のところ「COP10」と「生物多様性」という言葉の周知が第一で、生物多様性を守るために何をすべきかまではまだ手が行き届かないような感じですね。■来年は寅年。虎を絶滅の恐れから救えるようなCOP10となるよう期待しましょう。 (齋竹)

## 編集スタッフ

岡田 雅子	近藤 記巳子
齋竹 善行	酒井 勇治
永田 孝	山口 健

## 発送スタッフ

岩沙 雅代	横井 邦子
-------	-------

協議会ニュース編集部  
〒482-0007  
岩倉市大山寺元町 12-3  
齋竹 善行  
メール：BZA03620.nifty.ne.jp

■愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会） 事務局（当面）

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2

松尾 初 Tel 0568-32-5069

■Web Page : <http://naichi.net/>

■郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）